

繰越（翌債）を必要とする理由書

研究課題	事業概要	（当初計画） 変更後の計画	事由
<p>課題番号 16081205</p> <p>研究課題名 ミュオン粒子稀崩壊探索実験 MEGで迫る超対称性大統一理論</p>	<p>本研究の研究者がスイス・ポールシェラー研究所に提案した実験MEG (Mu-E-Gamma) は、新しく考案した独創的な実験装置によって、10の-12乗から-14乗という極微の分岐比までミュオン粒子の稀崩壊 (μe 反応) を測定できる。本研究では、実験装置の製作・設置を行い、この国際共同実験MEGを実施して、μe 反応の発見・測定を目指す。</p>	<p>当初計画 実験準備 平成18年度9月～11月</p> <p>実験 平成18年11月～12月</p> <p>データ分析・まとめ 平成19年1月～2月</p> <p>変更後の計画 実験準備 平成19年度4月～6月</p> <p>実験 平成18年6月～7月</p> <p>データ分析・まとめ 平成19年8月～9月</p>	<p>資材の入手困難 ウ（研究用設備施設の遅延）</p> <p>具体的な内容 研究計画を実施する上で不可欠である液体キセノン検出器容器はイタリアグループが製作を担当しているが、製作会社の工程管理不備により追加加工が必要となり、平成18年8月末の完成予定が平成19年4月となった。このため実験実施場所のスイス・ポールシェラー研究所への納品、据え付けが来年度となり、補助事業の年度内の完了が不可能となった。</p> <p>経費を繰越す必要性 この研究計画の一部となる液体キセノン検出器の立ち上げが当初計画通りに実施できなくなり、平成18年度中に研究をとりまとめることが不可能となった。 補助事業を完了するためには、液体キセノン検出器立ち上げに係る経費を繰越し、実験を実施し、データを分析しまとめることが必要である。</p> <p>補助事業の完了時期 平成19年9月30日</p>

